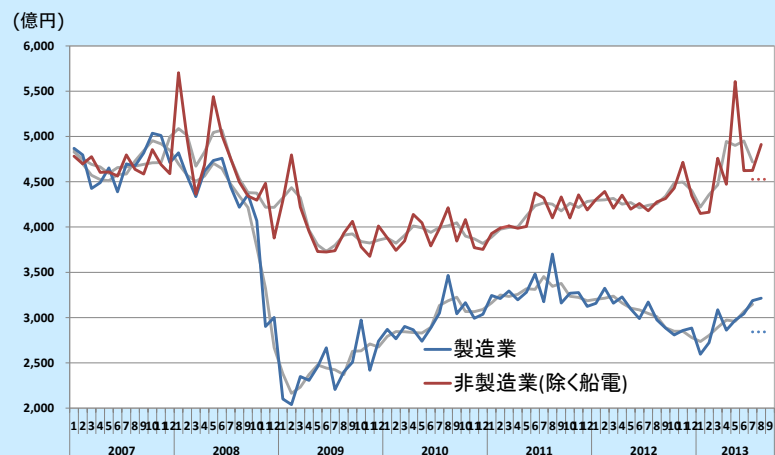
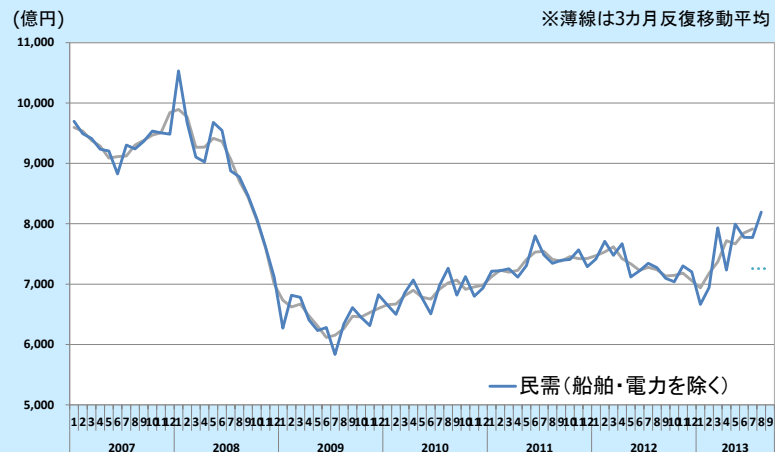


## 日本：機械受注統計（2013年8月）

MRI Daily Economic Points  
October 10, 2013

## 図表 機械受注

## 主要需要者別受注額



資料：内閣府

※点線は見通し額を3で割った値

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 民間設備投資の先行指標である機械受注(船舶・電力を除く民需)は、季調値で見ると、8月は前月比+5.4%と、3ヶ月振りの増加となった。水準としては、2008年9月のリーマンショック時以来の水準となった。
- 製造業は、前月比+0.8%と4ヶ月連続の増加。15業種中7業種が増加となった。増加に寄与したのは、食品製造業(同+51.3%)、化学工業(同+31.0%)、石油製品・石炭製品(同+223.2%)。一方減少に寄与したのは、先月の大幅増の反動減を示した、パルプ・紙・紙加工品(同▲86.6%)、非鉄金属(同▲65.2%)などであった。
- 非製造業(船舶・電力を除く)は、前月比+6.2%の増加。受注金額の大きい業種をみると、金融業・保険業(同+55.7%)、運輸業・郵便業(同+34.2%)、農林漁業(同+20.9%)が上昇。一方減少に寄与したのは、情報サービス業(同▲16.4%)や通信業(同▲8.5%)などであった。
- 外需は、前月比+22.4%と大幅に増加した。

## 基調判断と今後の流れ

- 機械受注(船舶・電力を除く民需)は、回復基調を維持している。
- 今回の回復局面では、非製造業(除く船電)の堅調が特徴的であり、特に、電力、通信、運輸・郵便、金融・保険の寄与が大きい。
- 一方、製造業の設備過剰感は依然強いが、日銀短観(9月調査)をみても、設備過剰感の改善が見られ、まずは更新投資を中心として持ち直しを続けるとみられる。
- 企業収益が改善する中、機械受注は回復傾向にあり、先行き、設備投資は持ち直しに向かうとみる。ただし、設備投資の本格回復には、中長期的な成長期待の上昇が必要である点は念頭に置く必要がある。